

平成 28 年 4 月 22 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 28 年 4 月 22 日 (金曜日)

午後 4 時から午後 5 時 15 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	武樋 正隆	教育施設課長	中村 仁
学務課長	茂田井裕子	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	大矢 芳彦	保育課長	大野 宏
中央公民館長	水島 幸枝	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	小熊 博史	スポーツ振興課長	川上 春雄
学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之	学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	星野 麻美	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	金子あゆみ		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 28 号	長岡市教育振興基本計画の策定について
3	第 29 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 4 月定例会を開会する。会議に入る前に、若月教育部長から発言を求められているので、許可する。

(若月教育部長) 長岡市教育委員会が 4 月より新体制となり、事務局職員も人事異動に伴い新体制となった。4 月 1 日臨時会に出席した職員については紹介済みであるが、当日出席していない職員について紹介する。

【若月教育部長より中村教育施設課長・茂田井学務課長・竹内学校教育課長・宮学校教育課主幹兼管理指導主事・高橋学校教育課主幹兼管理指導主事・柳沢学校教育課主幹兼管理指導主事・水島中央公民館長・金垣中央図書館長・小熊科学博物館長・大矢子ども家庭課長・大野保育課長・川上スポーツ振興課長の紹介】

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 19 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 28 号 長岡市教育振興基本計画の策定について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 28 号 長岡市教育振興基本計画の策定についてを議題とする。事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 平成 23 年 4 月策定の計画は、本年 3 月で計画期間が終了したため、次期長岡市教育振興基本計画案を提案し、決定いただきたいものである。これまでの教育振興基本計画は、3 月で期間が終了した長岡市総合計画を準用していた。今回の教育振興基本計画についても新しい長岡市総合計画を準用し、総合計画の教育や子育て支援に関する分野を盛り込むこととする。長岡市総合計画は平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間であるが、政策 2 人材育成 の部分を長岡市教育振興基本計画で準用する。ただし、総合計画が基本構想であるため、今回の計画に施策の内容を盛り込んである。本日の提案内容は、昨年度の教育委員協議会でいただいた意見を基に修正したものである。本計画期間は平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間である。また、今回の教育振興基本計画は昨年 12 月に定めた教育大綱の基本理念・基本方針を踏まえたものとなっている。それでは計画案について説明する。序章 施策の基本的方向性 では、これまでの教育・子育て分野の取組や今後の方向性についてまとめている。ふるさとへの愛着と誇りをもち、長岡の将来を担う人材を育てること、熱中する・感動する・夢につながる教育をすすめること、長岡市の教育の特徴である子育て支援の推進について等を基本的方向性としている。以降各章の前文については長岡総合計画を準用しており、施策の内容を今回の計画のなかに盛り込んでいる。第 1 章 郷土愛の醸成による人材の育成 については、ふるさとへの愛着と誇りを育て、郷土の歴史や文化、米百俵の精神や、縄文文化・火焰土器などの歴史的文化的遺産の継承・活用などを前文で謳っている。具体的施策としては、冊子「ながおか学」の活用、火焰土器の大英博物館への貸し出し・展示、長岡災害復興文庫の整備、長岡空襲の歴史継承、平和学習の推進などを盛り込んだ。第 2 章 子ども・子育て支援の充実 については、長岡版ネウボラや、保育施策の充実、放課後児童クラブの開館時間延長のほか、経済的支援等を盛り込んだ。第 3 章 質の高い教育の推進 については、これまで取り組んできてい熱中！感動！夢づくり教育の更なる推進、施設整備、給食の食物アレルギー対応、いじめ・不登校・問題行動等に対するサポート体制の充実、特別支援教育の充実等を盛り込んでいる。第 4 章 生涯にわたるまなびの場の充実 は、社会教育分野についてであり、図書館・公民館等の学びの場の充実について記載している。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(大橋委員) 時期教育振興基本計画には4つの章があるが、これまでと順序が大きく変わっている。今回の第1章の郷土愛の醸成による人材育成については、子ども達にどのように学び取ってもらおうかが大きな課題であり、学校との連携が欠かせない。重要な内容なので、今後の取組について是非検討してもらいたい。

(羽賀委員) 長岡市総合計画の策定の中で一番の柱は、次世代が長岡に定着することであり、それを最優先としたことから、こうした基本計画となったのだと理解する。ふるさとに愛着をもってもらい、出て行っても、帰ってくる町になるための非常に大きな政策となっていることから、第1章として取り上げられているのであろう。今まで長岡が教育の中で進めてきたものと大きく異なるものではないが、その先に、若い世代が自分たちの未来に責任を持つということが非常に大きな政策の柱となっている。そこに様々なプロジェクトが連動してくるのであろう。

(若月教育部長) 昨年、長岡リジュベネーションで人口減少対策を打ち出した。羽賀委員の言う流れがあって、長岡に愛着と誇りを持つという内容が全面にでてきた。そのため、教育振興基本計画でも一番最初に掲げられたものである。教育大綱でも同様の流れとなっている。大橋委員の言う通り、しっかり取り組まなければならないと感じている。

(青柳委員) 全体を通して、「米百俵の精神」「長岡版ネウボラ」など長岡の人でなければわからない言葉も、語釈をいれてあることで、理解することができる。第4章 生涯にわたるまなびの場の充実 について、表記が「まなび」と「学び」が混在しているため、表記を統一したほうが良い。

(高橋教育長) この計画は今までの計画とは異なる側面を持っている。地方創生の動きの中で、地方の人口減少対策を具体的に行うための施策として、地方版の総合戦略を昨年度策定した。5年間の計画のなかで、出て行った子どもに、また帰ってきてもらうための施策として、教育だけでなく、雇用や子育て環境・住居を整えることが重要である。この総合戦略を踏まえて、今年度からスタートする10年間の総合計画を策定した。この総合計画は、今後10年間の経済情勢や社会情勢の変化がなかなか見込みにくいために構想という段階にとどめたものである。ただし、我々が教育分野として策定する際に、考え方の構想だけではいけないということで、総合計画の構想を踏まえつつ、具体的施策を入れて策定した。この施策を続けてい

くか議論する必要があるが、少なくともこの5年間については、地方創生・人口減少対策として、長岡市が策定した総合戦略に基づき、教育の部分についても進めていこうというものである。長岡市の教育を大きく変えていくものではない。

(竹内学校教育課長) 熱中！感動！夢づくり教育の事務局として、平成25、26年度で見直しを行い、27年度からふるさと長岡への愛着や誇りを土台に、社会に貢献できる資質や能力を育むことを、新たな10年の目標とした。平成27年度から先駆けて、ふるさと長岡への愛着や誇りに関しての施策を行ってきたので、その部分はしっかりと取り組んでいく。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。出していただいた意見を受けて、我々は冊子という形でまとめるわけだが、現場でしっかりと実行できる施策にしていく。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第3 議案第29号 附属機関委員の委嘱について

(高橋教育長) 日程第3 議案第29号 附属機関委員の委嘱について 議題とする。事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 長岡市水族博物館協議会の定員は10名であるが、平成28年4月1日からを委嘱期間として、3月定例会で6名の委嘱を決定していた。今回は、各種団体からの推薦をうけた4名を、5月1日からを委嘱期間とし提案するものである。長岡市スポーツ推進審議会については、学識経験、各種団体・地域からの推薦、公募委員、合わせて20名である。その内訳は新任が7名、再任が13名である。5月1日からの2年間を委嘱期間とする。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、平成 27 年度 教育に関する事務の点検及び評価方針について 事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 教育に関する事務の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、教育委員会が前年に実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価を行うものである。平成 27 年度の教育委員会会議の審議状況あるいは、教育振興基本計画の基本施策について、点検評価を行うものである。5 月 16 日、7 月 8 日、7 月 26 日に事務評価委員会を開催する。事務評価委員は 4 名であり、学校訪問を通して授業や市の事業を見てもらい、評価してもらう。第 2 回の事務評価委員会の際には、教育委員と事務評価委員の意見交換を行う。3 回目にまとめを行い、8 月 24 日の教育委員会定例会で報告書を決定し、9 月の市議会に報告し、公表する。会議録及び報告書については、ホームページで公開する。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 質疑、意見なしと認める。

(高橋教育長) 次に、平成 28 年度 教育委員の学校訪問について 事務局の説明を求める。

(宮管理指導主事) 今年度の教育委員の学校訪問について提案を行う。学校訪問は、学校を訪問してもらい、授業参観や、テーマを設けて職員と懇談を行うことで、学校・地域からも教育委員会の考え方に対し理解を深め、学校教育に活かしてもらうことを目的としている。訪問日時は、5 月以降定例会の日にあわせて実施する。訪問では、学校運営上の課題事項を校長から説明してもらい、実際の授業を見てもらう。職員との懇談では、必要に応じて地域の方々にも参加してもらう。また、会場によっては給食の試食を行うことを考えている。訪問は 2 班編成で行い、1 回につき 2 校訪問する。今年度は、最後の訪問が 22 年度より前となっている学校 9 校、及び最後の訪問が 23 年度となっている学校 9 校の中から訪問校を選ぶ。数年かけて、この候補校全てを回りたいと考えている。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 私自身も久しぶりの学校訪問である。大久保委員も初めての学校訪問なので、まずは、学校訪問を経験してもらい、来年度以降の改善に活かしてもらいたい。合併前は、旧長岡地域のみを対象としていたので、比較的短い期間で、全ての学校を回れた。合併後は 88 校となり、全学校を回るのに、年数がかかるようになった。その間に教員の異動もあるため、一度も訪問することなく次の学校へ異動してしまうということもあり得る状況である。どのような方法で学校訪問を行うか検討していかねばならない。また、数をこなすために短時間でただ訪問するだけでは意味がないので、こうした状況を踏まえた訪問の仕方としたいものである。

(高橋教育長) 次に、平成 28 年度 長岡市成人式について 事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 5月3日には、長岡地域、越路地域、小国地域、栃尾地域、川口地域で成人式が行われ、高橋教育長及び各委員から臨席していただく。

(高橋教育長) 成人式については、先に説明をうけているので、質疑等は省略する。次に、平成 27 年度 長岡市スポーツ推進審議会会議報告及び平成 28 年度 長岡市スポーツ振興事業計画について 事務局の説明を求める。

(川上スポーツ振興課長) 平成 27 年度 長岡市スポーツ推進審議会の会議報告を行う。平成 28 年 3 月 15 日に開催し、出席した委員は、定員 20 名のところ 14 名であった。会議内容は 3 つの議題のほか、特に、次期「長岡市スポーツ推進計画（仮称）」の策定について意見を交換した。多くの委員が子ども達のスポーツ環境づくりに強い関心をもっており、子どもたちのスポーツ・運動離れを心配し、子ども達の運動割合を増やす必要があると感じていた。主な意見として、少子化もあり、野球などの各学校単独の少年団が成り立たなくなっていること、種目相互で子ども達の取り合いになっていること、子どもたちのスポーツ活動に携わる指導者数が不足していること、指導者の養成の必要性等があげられた。特に、40 代付近の働き盛りのスポーツ参加人口が少ないため、親世代のスポーツ参加や、親子で楽しめるスポーツの機会づくりが必要ではないかとの意見も上がった。また、障害者のスポーツ振興に対する課題については、障害の有無にかかわらず、同じ立場でスポーツを楽しむ環境が整っていないとして、障害者のスポーツ参加拡大のための施策が必要との意見が上がった。これらの意見について引き続き議論を深め、今後の推進計

画に反映させていく。次に、平成 28 年度長岡市スポーツ振興事業計画について説明する。次期「長岡市スポーツ推進計画（仮称）」の策定とともに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、市民のスポーツへの関心・意識の高まりを背景に、市民が身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを目指した「1 市民スポーツ活動の充実」、本市からオリンピック選手を輩出を目指す「2 競技スポーツの振興」、生涯スポーツ・競技力向上の両面において大切な「3 スポーツ好きな元気な子どもの育成」、これらの活動拠点となる「4 スポーツ施設の整備」が 4 つの柱となっている。具体的事業について説明する。

1 市民スポーツ活動の充実 については、長岡市スポーツ協会・長岡市スポーツ推進連盟等の外郭団体と連携し、地域スポーツ活動の推進、スポーツレクリエーション活動の推進に努める。地域交流スポーツ大会は、日頃コミュニティの中で活動しているスポーツ愛好者の成果発表や相互の交流をねらいとし、12 種目について各地域で開催する。コミュニティスポーツクラブの育成支援については、引き続きエリアアドバイザーを配置し、設立間もない地域型スポーツクラブへの活動支援や、今後設立予定の地域についての開設準備支援を行っていく。

2 競技スポーツの推進 については、2020 年東京オリンピックに向けた強化事業として平成 26 年度から取組を開始しており、順調に成果がでていと評価しているため、引き続き推進していく。平成 28 年度で前期の 3 年が終わることから、これまでの検証を行い、後期の効果的な取組を検討していく。事前合宿の誘致については、水泳・バスケットボール・バドミントン・器械体操の 4 種目についてオリンピック組織委員会が作成するガイドブックに登録手続きを終えた。これにより、今年度のリオデジャネイロオリンピックの開催に合わせて、長岡市の事前合宿施設等の情報は広く世界に発信されることとなる。国内で開催される国際大会などの場を活用し、誘致活動を進めていく。障害者スポーツ活動の推進は、障害者スポーツ指導員フォローアップ研修会を実施し、関係機関と連携しながら、愛好者層の拡大・競技者層の育成、指導者育成に努める。全国大会等出場選手への激励、報奨金交付については、全国大会出場者への報奨金を現行 5 千円から 1 万円に増額する。

3 スポーツ好きな元気な子どもたちの育成 については、全国・世界で活躍するトップアスリートの技を間近に見て直接学び、子ども達の感動や夢を育むため、トップアスリート招聘活動を推進する。平成 28

年度もジュニア選手向けのクリニックや市民向けのトークショーを通じて競技力の向上を図り、市民の関心を高めていく。4 スポーツ施設の計画的な整備 については、ニュータウン運動公園整備事業が第2期計画整備に入っており、今年度内にソフトボール場2面が完成予定であり、次に野球場の整備に着手する。野球場については、年度内に基本計画を策定する。平成27年度からの継続事業として進めてきた陸上競技場の改修整備事業が5月末までに完了し、営業を再開する。その他の施設についても整備をすすめ、中・長期的な施設整備の在り方について、推進計画の中に盛り込む。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(青柳委員) 地域交流スポーツ大会が、第30回記念大会ということだが、いつもとは違う企画をしているのか。

(川上スポーツ振興課長) 大会の運営はスポーツ推進連盟が行っている。記念大会の内容については現在検討中である。

(高橋教育長) 先日も、スポーツ推進委員の方と話したが、地域交流スポーツ大会は3千人の参加者があり、長岡市内の大会でもっとも参加者の多い大会の一つであるとのことだった。尚且つ、地域の方々を巻き込んだ、様々な種類のスポーツがあることで、スポーツ連盟もかなり力を入れて取り組んでいる。

(羽賀委員) 2020年にむけてパラリンピック・オリンピックは盛り上がってくると思うが、スペシャルオリンピックスの対象となる知的障害をもった人たちが置いてきぼりになっているように感じる。そうした方々を排除しない取組を行ってほしい。

(川上スポーツ振興課長) パラリンピックにも、知的障害者を対象とした種目もあるので、あらゆる障害者が一緒にスポーツを楽しめるような環境づくりをしていきたいと考えている。

(羽賀委員) 身体的な障害者を対象とする種目は知られているが、知的な障害者を対象とした種目はほとんど知られていない。こうした種目の普及も課題となるのではないか。

(高橋教育長) スペシャルオリンピックスについては、長岡応援団の有森裕子さんが熱心に取り組まれている。この冬には、新潟と魚沼を会場として開催された。有

森さんは長岡の西山連峰登山マラソンに毎年関わっており、長岡市との関わりも深い
ため、そうした部分を活かしながら連携できることがあれば取り組んでいきたい。
もし長岡が関わる事ができれば、民間企業をスポンサーとして巻き込みながら取
り組みたい。

(高橋教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手願う。

(高橋教育長) ないようなので、その他に報告事項を報告願う。

(大矢子ども家庭課長) 3点報告がある。1点目は、2月定例会で、平成27年度
第3回子ども子育て会議について報告したが、当該会議のなかで、長岡市青少年健
全育成総合対策実施計画案について審議したことを報告した。今般正式な計画がま
とまり、本日配布した。本計画は、長岡市子育て、育ち“あい”プランの関連計画
として、毎年作成しているものである。2点目に、家庭でワクワクお手伝い通信に
ついては、今号は上通小学校の取組を取り上げ、青柳委員から4コマ漫画を描いて
いただき掲載しているので、是非ご覧いただきたい。3点目に、子育てナビのリー
フレットを配布したので活用してもらいたい。

(竹内教育学校課) 熊本の地震に関連して、熊本には小国中学校という当市の小国
中学校と同名の学校がある。中越地震の際に、熊本の小国中学校から激励のメッセ
ージをいただいた。そのお礼として、長岡市から激励のメッセージを書いた水を
25日に届けることとなった。その他、児童・生徒会を通して募金活動を検討して
いる学校が50校を超えている。中越地震で被災した経験を活かし各学校が活動し
ていることを報告する。

(若月教育部長) 火焰土器を九州国立博物館に4月26日から貸し出すこととなっ
た。また、馬高縄文館も、手作りのグッズを作成したり、様々な体験活動を企画す
るなど、火焰土器発見80周年を盛り上げる活動を行っている。また、火焰土器が
日本遺産に認定されたので報告する。

(小熊科学博物館長) 科学博物館では、愛鳥週間にあわせて特別展を実施中であり、
牧野家史料館では、5月人形を展示しているので、是非ご覧いただきたい。

(高橋教育長) 他に何かあるか。

(羽賀委員) 先日発生した熊本地震について1点報告がある。私はバックアップセ
ンターのセンター長を務めているが、バックアップセンターでは全国の災害の被災

地を支援している。外国人支援として、4月24日から4日間、熊本地震の被災地に入る。熊本市の国際交流財団の国際化アドバイザーを8年間務めており、長岡の震災時のノウハウを伝えてきたので、トイレや水道タンクなどの設備に活かすことができた。電気が復旧してからは、備えてあった電気釜を使って炊き出しを行うこともできた。外国人向けの商店もあるので、ハラールも200食程用意できるよう備えていた。今後も、中越地震での被災経験を活かして取り組んでいきたい。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員